



TITLE:

第二次世界大戦期の国際決済銀行 (1)ーその前史：BIS設立から第二次 大戦前夜までー

AUTHOR(S):

西牟田, 祐二

CITATION:

西牟田, 祐二. 第二次世界大戦期の国際決済銀行(1)ーその前史：BIS設立から第二次大戦前夜までー. 経済論叢 1998, 161(2): 1-24

ISSUE DATE:

1998-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/45196>

RIGHT:

經濟論叢

第 161 卷 第 2 号

-
- 第二次世界大戦期の国際決済銀行（1）……………西 牟 田 祐 二 1
- 現代イギリス労資関係の
転換についての一考察（2）……………上 田 眞 士 25
- 芸術・文化の公的支援理論における
分権型評価システムの位置……………後 藤 和 子 40
- 大阪大都市圏の形成とニュータウン開発（1）…槌 田 洋 59
- 正常価格理論と内包的地代……………平 野 嘉 孝 83

学 会 記 事

平成10年 2 月

京 都 大 学 經 済 學 會

第二次世界大戦期の国際決済銀行（1）

——その前史：BIS設立から第二次大戦前夜まで——

西 牟 田 祐 二

問 題 の 所 在

「この種のアレンジメントよりもアメリカによる（ないしはアメリカとイギリスによる）ドイツへの Gold-Loan の提供ではどうか？ そのための方法としては BIS（国際決済銀行 Bank for International Settlements）を通じたやり方が存在する。」1939年5月ジェネラル・モーターズ社副社長にして海外事業部長ジェイムズ・D・ムーニー James D. Mooney はこうドイツ政府高官に切り出した¹⁾。これはドイツが外貨危機への対応としてドイツに存在する外国企業へ外貨節約のための協力を交渉していた時のことである。GM 社経営者 J・D・ムーニーの目からすれば外貨問題の解決のためには多国籍企業の企業内貿易を利用した「間接的な」やり方よりももっと直接的なあるいは根本的な解決策があるという提案であったであろう。しかしながらここで言及されている国際決済銀行 Bank for International Settlements とは何か？ とりわけ1939年5月という時点でいかなる存在なのか。GM 社経営者ジェイムズ・D・ムーニーにとってそれがなぜ根本的な解決と考えられたのか？

バーゼルに立地する国際決済銀行 Bank for International Settlements（以下 BIS）は、従来わが国においては、あるいは世界的に見ても、十分な検討の対象となってきたとは言い難い。特に第二次世界大戦期についてはそれはむしろ

1) 拙稿「ナチ経済とアメリカ大企業——GM社の場合——」『経済論叢』第157巻第1号，1996年1月，130ページ。

いわば「謎に包まれた存在として」語られることが多かったと言えるのではないだろうか²⁾。ところが最近年こうした状況は根本的に変化した。状況を変えたもののひとつは、「ナチ金塊問題に関するアメリカ政府報告書³⁾」(1997年5月7日)が第二次世界大戦期のスイスの金融的位置との関連でかなりのページ数を割いてBISについても言及したことである⁴⁾。その第二は、上記に関連して国際決済銀行それ自体も疑問に答えるためとしてこれまで公開されていなかったBIS文書館BIS-Archives, Baselの公開を決定(1997年7月30日)、予備的な三本の報告書⁵⁾を公表したことである。これと前後していくつかの研究も発表されはじめた。その中で今日までのところ傑出した存在は、チューリッヒの歴史家ギアン・トレップGian TreppによるDie Bank für Internationalen Zahlungsausgleich im Zweiten Weltkrieg, Zürich 1996である。国際決済銀行をめぐる諸問題のなかでも検討すべき最大の問題は、それが第二次世界大戦をどのように生き抜いたかに尽きると言ってよいが、その場合のポイントは二つある。ひとつは、上記「アメリカ政府報告書」も指摘しているごとく、第二次世界大戦期のうち1940年から1945年までのBIS総裁がアメリカ人トーマス・H・マッキトリックThomas H. McKittrickであったことである(表1、2参照)。いまひとつは、第二次大戦後の国際通貨体制の問題を討議したかのブレトン・

2) また、たとえばS. ストレンジは、BISが1930年に設立されながらもその後「長い、無活動の冬眠を余儀なくされていた」と述べている。(S. Strange, *Sterling and British Policy*, 1971, 邦訳『国際通貨没落過程の政治学 ポンドとイギリスの政策』本山・矢野・高・伊豆・横山訳, 三嶺書房, 1989年, 355ページ。)これが一般的な認識を代表するものと言ってもよいだろう。本稿及び続稿はそれに対する直接の反証となる。

3) U S and Allied Efforts to Recover and Restore Gold and Other Assets Stolen or Hidden by Germany During World War II, Preliminary Study Coordinated by Stuart E. Eizenstat, prepared by William Z. Slany, May 1997.

4) 同報告書, 38-39, 187-191ページ。

5) Bank for International Settlements: Introductory Note on the Bank for International Settlements 1930-1945, Basle 12th May 1997.

do: Note on Gold Operations Involving the Bank for International Settlements and the German Reichsbank, 1st September 1939-8th May 1945, Basle 12th May 1997.

do: Note on Gold Shipments and Gold Exchanges Organised by the Bank for International Settlements, 1st June 1938-31st May 1945, Basle 9th September 1997.

表1 第二次世界大戦期国際決済銀行の監査役会¹⁾及び経営陣²⁾の構成
(1943年6月)

BANK FOR INTERNATIONAL SETTLEMENTS

BOARD OF DIRECTORS

Ernst Weber, Zurich	Chairman
Dott. V. Azzolini, Rome	
Y. Breart de Boisanger, Paris	
Baron Brincard, Paris	
Walther Funk, Berlin	
Alexandre Galopin, Brussels	
Prof. Francesco Giordani, Rome	
Hisaakira Kano, Tokio	
Sir Otto Niemeyer, London	
Montagu Collet Norman, London	
Ivar Rooth, Stockholm	
Dr. Hermann Schmitz, Berlin	
Kurt Freiherr von Schröder, Cologne	
Dr. L. J. A. Trip, The Hague	
Marquis de Vogue, Paris	
Yoneji Yamamoto, Berlin	

Alternates

Dott. Giovanni Acanfora, Rome
Dott. Mario Pennachio, Rome
Cameron F. Cobbold, London
Emil Puhl, Berlin

EXECUTIVE OFFICERS

Thomas H. McKittrick	President
Roger Auboin	General Manager
Paul Hechler	Assistant General Manager
Dott. Raffaele Pilotti	Secretary General
Marcel van Zeeland	Manager

Dr. Per Jacobsson	Economic Adviser
Dr. Felix Weiser	Legal Adviser

16th June 1943.

注1) Board of Directors / Verwaltungsräte

2) Executive Officers

表2 第二次世界大戦期国際決済銀行監査役会 (Verwaltungsräte) 構成員の
異動 1939年—1946年

Präsidenten

Sir Otto Niemeyer (Bank of England) bis Juni 1940

Von Juni 1940 bis Dezember 1942 war die BIZ ohne Präsident

Ernst Weber (Schweizer Nationalbank) vom Januar 1943 bis Juni 1946

Maurice Frère (Banque Nationale de Belgique) ab Juni 1946 bis 1958

Verwaltungsräte und Stellvertreter

Deutsche

Walther Funk (1939 bis 1945)

Emil Puhl (1939 bis 1945)

Kurt von Schröder (1933 bis 1945)

Hermann Schmitz (1939 bis 1945)

Franzosen

Pierre Fournier (bis September 1940)

Yves Bréart de Boisanger (September 1940 bis September 1944)

Emmanuel Monick (September 1944 bis 1948)

Marquis de Vogüé (1930 bis 1948)

Baron Brincard (1930 bis 1953)

Engländer

Montagu C. Norman (1930 bis Juni 1944)

Sir Otto Niemeyer (1932 bis 1965)

Lord Carto (Juni 1944 bis 1948)

Cameron F. Cobbold (1935 bis 1948)

Italiener

Vincenzo Azzolini (1930 bis Anfang 1945)

Luigi Einaudi (Anfang 1945 bis 1948)

F. Giordani (1939 bis 1945)

G. Acanfora oder M. Pennacio (1940 bis Anfang 1945)

Belgier

Georges Janssen (1937 bis 1941)

Albert Galopin (1934 bis 1944)

Zwischen Dezember 1942 und September 1944 waren die belgischen Sitze in Basel doppelt besetzt: Für die Banque Nationale in Brüssel durch Albert Goffin und für die Exil-Banque Nationale in London durch Georges Theunis

Maurice Frère (September 1944 bis 1957)

Camille Gutt (Anfang 1945 bis Juni 1946)

Hubert Ansiaux (September 1944 bis 1954)

Japaner

K. Futami (Bis Juni 1940)

Y. Yamamoto (1940 bis 1945)

K. Kitamura (1940 bis 1945)

Holländer

Leonardus J.A. Trip (1931 bis 1946) Zwischen seinem Rücktritt als Präsident der Niederländischen Bank Roost van Tonningen

Schweden

Ivar Rooth (1932 bis 1948)

Schweizen

Ernst Weber (Von 1939 bis 1946)

出所: Gian Trepp, *Bank für Internationalen Zahlungsausgleich im Zweiten Weltkrieg*, Zürich, 1996, S. 236.

ウッズ会議 Bretton Woods Conference (1944年7月)で、BISの解散が明示的に決定されている⁶⁾のになぜ現実には解散されなかったのか。なぜ戦後にかけてBISはIMFと並ぶ、場合によっては相互に矛盾する、国際金融問題をめぐる国際機関として生き残ったのかということである。ギアン・トレップは、現在ハーバード大学ベイカー・ライブラリー Baker Library, Harvard University, Cambridge MA に所蔵されている上述当該期 BIS 総裁であったトーマス・H・マッキトリックの遺した文書⁷⁾を近年になって初めて整理・検討することによって、これら諸問題に果敢に挑戦している。

われわれは、これら3つの最新レポートを多角的に分析することによって第二次世界大戦期の国際決済銀行について考察して行くことにしよう。それにはまずその設立にまでさかのぼらねばならない。国際決済銀行(BIS)の設立は1929年から30年にかけて行われた。そしてそれに続く第二次世界大戦勃発(1939年)までの10年間の考察なしには、戦時期におけるその歴史は決して理解できない。1930年代のBISはドイツ賠償問題についても大不況の克服に対しても具体的に大きな成果を示したわけではない⁸⁾。しかしながらBISの発足以降バーゼルにおける月例の会議はヨーロッパの諸中央銀行総裁のスケジュール表の中にしっかりと確立していた⁹⁾。1930年代の後半には政治的に分裂していたジュネーブの国際連盟とは反対に、バーゼルにおける中央銀行総裁たちの国際決済銀行は大いに栄えていた。BISは、事実上ドイツとの協調を志向するイギリスとフランスにおけるあの強力な政治潮流である対独宥和政策 Appeasement-Policy のいわばセンターとなっていたのである。そしてこの過程の中でBISを戦時においても生き延びさせた中央銀行相互間の信頼関係も

6) 廣田功、森建資編『戦後再建期のヨーロッパ経済』日本経済評論社、1998年、349ページ注(23)等参照。

7) Thomas H. McKittrick Special Collection, Baker Library Harvard University, Graduate School of Business Administration (以下 McKittrick Collection ないし MC と表示)。

8) ドイツ対外商業債務の据え置き協定に関する「ウィギン委員会」(有沢廣巳『ワイマール共和国物語』(下)東京大学出版会、1994年、717ページ)を除いて。

9) 有沢、前掲書、587, 617, 680, 717, 722ページ。

基礎付けられたのである。

I 賠償銀行としての設立

国際決済銀行（BIS）の形成は第一次世界大戦後の工業諸国の国際的な中央銀行間の協力の必要性にその根拠があった。1914年に崩壊した国際金本位制に世界通貨制度を戻すこと、ドイツの賠償金支払問題、それに決して小さくはないロシアにおけるボルシェヴィキ革命に対する憂慮などの共通した問題がヨーロッパ諸列強およびアメリカ合衆国の諸中央銀行を1920年代の経過の中で互いに接近させた。1927年7月についにニューヨークで初めての、イングランド銀行、ニューヨーク連邦準備銀行、フランス銀行およびドイツ・ライヒスバンク諸総裁の公式の会議が開かれた。とりわけロンドンからのモンタギュー・C・ノーマン総裁が諸中央銀行間の協力関係の制度化を主張した。2年後ノーマンはドイツ賠償金支払い問題の再編のためのパリ会議において諸中央銀行間の協力の要求をテーブルの上に載せた。

ヴェルサイユ

国際決済銀行（BIS）の設立は、ドイツが第一次世界大戦の後に支払わなければならないなかった賠償金の問題と密接に結びついていた。この支払いとそのフランス、イギリス、ベルギー、イタリア、日本への分配は1919年にヴェルサイユ条約によって取り決められた。戦勝国であるアメリカはヴェルサイユ条約の非署名国として賠償を放棄した。もちろんアメリカは間接的には利益を得た。というのはフランスとイギリスはアメリカに対して負っているその高額の戦争債務をドイツの賠償金によって支払おうと考えていたからである。ヴェルサイユ賠償委員会の最初の要求は2260億マルクであり、ドイツの経済的な支払い能力をはるかに超えるものであった。金融専門家の間でいくつかのやり取り、なかんづくそこではイギリスの代表者ジョン・メイナード・ケインズが賠償総額引き下げの支持者として現れたが、その後でこの総額は最終的に1320億マル

クへと半減された。1922年にドイツはちょうど10億マルク支払ったが次の年の支払いはハイパー・インフレーションの結果としての経済的混乱の犠牲になった。1924年の春に専門家委員会は合衆国銀行家のチャールズ・G・ドーズを長として新たな賠償計画を策定した。ドーズ案は年支払額を10億マルクから始まって25億マルクに次第に上がって行き、最終支払いは1988年になるように確定した。ドイツ政府はこのための資金を工業及びライヒ鉄道（ライヒスバーン）からの引き渡しによって、また新たな関税及び間接税によって調達すべきとされた。債権国の諸中央銀行への転送のためにドーズ案はベルリンに120人のスタッフをもつ国際的な賠償代理機関の事務所を設立した。その後ドイツが1928年の末までにまるまる60億マルクを賠償金として支払った後で、戦勝国はドーズ案の改訂を行うことを決めた。

ヤング案

1929年1月9日パリで金融専門家の国際会議が開かれた。今回の会議の議長となったのは、当時のアメリカの最大銀行であるJ. P. モルガン商会のパートナーであるアメリカ人オーウェン・D・ヤングであった。参加者はドイツ・ライヒスバンクの総裁およびフランス、ベルギー、イギリス、イタリア、日本の賠償債権国の中央銀行総裁とならんでこれらの国々の民間諸銀行の代表者たちであった。アメリカ合衆国はニューヨーク連邦準備銀行総裁によって代表されているのではなく、J. P. モルガン、Jr. によって代表されていた。モルガンに主導されるアメリカの銀行グループは当時賠償債権諸国の次に位置するドイツに対する第二番目の最大外国債権者であった。

ヤング会議は、賠償金の額を引き下げ、それを非政治化する、すなわち諸政府の責任を引き上げて諸中央銀行にそれを移転する、という課題を持っていた。それに加えて専門家たちは異論のあるベルリンに置いた外国の賠償代理機関を廃止することを提案した。今後はドイツの賠償支払いは新たな、国際的な賠償銀行によって委託されて集金され、債権国中央銀行に移転されるべきとされた。

それに加えてこの計画された銀行は国際的な3億ドルの「ヤング公債」を発行し、こうして獲得された資金を賠償債権国に転送する。またヤング債権の民間の購入者にはライヒスバンクによる期間の定めをもった債務（支払い）負担義務を保証する。こうした金融操作によって政治的な賠償債務の一部が通常の商業的な債務に転換されることができたのである¹⁰⁾。

諸中央銀行間の協力

イングランド銀行のモンタギュー・C・ノーマン総裁の提唱にもとづいて、計画されている賠償銀行の業務帳は第二の課題領域をもって補完された。諸中央銀行の協力作業を推進することがそれである。ノーマンはヤング案交渉からついに彼が長く心に抱いていた「諸中央銀行の銀行」という目標を実現可能にするという利益を引き出したのである¹¹⁾。オーウェン・D・ヤングが最終的に1929年6月7日に新聞に対し賠償問題の新規制のための計画を発表した時、あらたな「国際決済銀行 Bank for International Settlements (BIS)」と命名された金融機関の創出が関心の中心になった。

さらにこの夏1929年8月にイギリス、フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア、オランダ及び日本の諸政府がハーグでヤング案を承認し、細部の検討作業のために10月のバーデン・バーデンでの専門家委員会を任命した。こうした急速なペースはBISの設立が諸国で簡単に承認されたということの意味するものではない。実際は逆である。イギリスでもドイツやフランスでも中央銀行総裁たちは大きな政治的な抵抗を克服する必要があった。イギリスではとりわけ影響力のある経済誌がクールで静観的な対応をした。影響力ある週刊誌『エコノミスト』の編集人ウォルター・レートン卿 Sir Walter Layton は、BISの設立を支持したものの、この新しい銀行の上位監督責任は中央銀行総裁の手では

10) ちなみにこれと同じ金融技術で70年後アメリカ合衆国は1989年にブレイディ・プランによってメキシコへの外国政府債権の一部を清算した。

11) Sayers, Richard S., *The Bank of England*, London, 1976, p. 352.

なく、政府の手に置く事を求めた。この意味でレートンはBISをジュネーブの国際連盟のもとに置く事を提案したのだった。それに対してノーマン総裁はこの支配的なイギリスの政治的に独立したBISについての批判者を、バーデン・バーデン会議のイギリス側代表者団の一員に据えることによって中立化する事に成功した¹²⁾。

フランスでは、国際連盟にコントロールされない、その意味で政治的に独立したBISというコンセプトは何ら異議を唱えられなかった。それにたいして左翼から右翼にいたるまでのたいていの政治家はドイツの賠償債務の引き下げにそもそも拒否したのであった。何の不思議もない。賠償支払いの52パーセントをもつ最大の利益者としてフランスは賠償額の引き下げに金融的によってもっとも多くの損失をこうむるからである。しかしフランス銀行総裁の一貫した支持のおかげでヤング案は終局的にフランス政府の承認を得た。

ドイツにおいては「賠償の恥辱」という受け止め方が前面に立った。反対派はヤング案のドイツ国会での承認を阻止する事はできなかったが、厳しい議論はある結果を生んだ。1929年10月にライヒスバンク総裁のヤルマール・シャハトがヤング案への抗議を理由として辞任したのである。この同じシャハトが数ヶ月前バリーでこのヤング案を大きな成功と賞賛していたにもかかわらずである。シャハトはワイマール共和国という沈み行く船を見捨て、続く3年間にドイツの金融界でのヒトラー支持者の最も重要な開拓者になっていくのである。そのおかげで彼の「フューラー」はシャハトを1933年の権力奪取後あらためてライヒスバンク総裁に就けるのである。

アメリカ合衆国においてもヤング案とBISの主役たちは大きな政治的困難に突き当たった。ここではドイツの賠償債務の減額ではなく、アメリカの中央銀行たる連邦準備制度の計画されているBISへの参加が問題となった。オーウェン・D・ヤングとJ. P. モルガン, Jr. はフーヴァー大統領に、ニューヨーク連邦準備銀行の総裁ゲイツ・W・マクゲラー Gates W. McGarrah を計画され

12) Sayers, Richard S., *Ibid.*, p. 354.

ている BIS へのアメリカ代表者として派遣する事を提案していた。マクゲラーはチェース・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨークの前総裁で J. P. モルガンとも緊密な信頼関係があった¹³⁾。この指名について影響力ある下院議員で銀行批判者のルイス・T・マクファデン Louis T. McFadden はまったく聞く耳を持たなかった。マクファデンは言う。「これではワシントンの連邦準備制度理事会は一層大きくニューヨーク連邦準備銀行によって支配される事になる。この支配はわれわれの準備制度のニューヨーク支店に州を超えた連邦準備制度の全信用領域で活動する事を許すことになり、アメリカのお金をそれを監督するワシントンの連邦準備制度理事会の許可無しにヨーロッパの銀行に送り出すことを可能にしてしまう。」¹⁴⁾マクファデンの批判——ちなみに彼の名を冠した法律が現在にいたるもアメリカの銀行に州を超えた支店網の形成を禁止しているのである——がついにフーヴァー大統領をして連邦準備制度自体が BIS の監査役会に参加する事を実現させなかったのである¹⁵⁾。

BIS の設立

将来の BIS に参加する諸国におけるこれらのあらゆる国内政治上の諸困難にもかかわらず、1929年10月3日バーデン・バーデンにそれぞれ2人ずつのドイツ人、イギリス人、フランス人、ベルギー人、イタリア人、日本人及びアメリカ人の専門家たちからなるグループが参集した。最初の問題は計画されている BIS の将来の立地をどうするかという事であった。はじめのうちはロンドン、パリ、ブリュッセル、アムステルダム、チューリッヒ、及びバーゼルが検討対象となった。フランス人はロンドンに反対し、イギリス人はパリに反対し、ドイツ人はブリュッセルに、ベルギー人はアムステルダムに反対した。そこで最終的にバーゼルとチューリッヒが残った。チューリッヒにはドイツ人だけが

13) *The Manchester Guardian*, 31. 1. 1930.

14) *The Commercial and Financial Chronicle*, New York, 14. 1. 1930.

15) *Deutsche Bergwerkszeitung*, Duesseldorf, 17. 8. 1929.

賛成したので、結局 BIS の立地はバーゼルとなった。立地問題が解決した後、専門家たちは BIS の原則 Grundgesetz と定款 Statuten およびスイスとの間の国家契約のための草案の作成に取り掛かった。加えて3億ドルのヤング公債の金融技術的な詳細と発行条件の検討が必要であった。この有価証券発行による資金の大部分は賠償債権国が受け取るべきものであり、小部分は BIS の経営コストのための資金供給の目的で BIS のドイツ・ライヒスバンクへの利子付き貸し付け金として残された。

新銀行の規約文書は原則と定款とに分かれた。原則は、活動領域、監査役会の会議、総会の取り決め手続きを規制し、これは参加諸国の政府及び議会の合意をもってのみ変更し得るとされた。原則の内でもっとも重要な点は第10条であって、これはすべての参加国に、この銀行がその資産とすべてのそれに委託された諸価値を戦時においても制限を加えずに保持する事、またとりわけ金と外貨の輸出入を制限も禁止もしないようにさせる義務を負わせた事である¹⁶⁾。BIS の定款は内的な構造と銀行業務の組織を規定し、その修正は、専一に諸中央銀行によって選ばれた監査役会の権限に所属するものとした。「政治家はこの新たな銀行に対して何も発言する事ができない」と当時、モルガン支配下のファースト・ナショナル・バンク・オブ・シカゴ総裁としてバーデン・バーデンの会議でアメリカ合衆国の利害を代表していたマーヴィン・A・トレイラー Mervin A. Traylor は語っていた。「その監査役会は諸中央銀行家によって選ばれ、かれらは国際的な銀行家によって指導され、よって監査役会はどんな形でも直接には何らかの政府と結びついてはいない。」¹⁷⁾

BIS の創立株式資本金は4分の1ずつ支払われた5億スイスフランによって定められ、7つの設立諸銀行および15の更なるヨーロッパ諸中央銀行に配分された。設立銀行はそれぞれ16000株を受け取り、その他のヨーロッパ諸銀

16) Die Bank für Internationalen Zahlungsausgleich und die Basler Zussammenkünfte, Hrsg. BIZ, Basel, 1980, S. 132.

17) New York Herald-Tribune, 16. 4. 1930.

行はそれぞれ4000株を受け取った。監査役会会議議席もまた一定の国民的比率に従って配分され、すなわちドイツ人とフランス人3人ずつ、イギリス人、イタリア人、ベルギー人が2人ずつ、それに日本人とオランダ人とスウェーデン人とスイス人の議席がひとつずつであった。アメリカ合衆国と日本の出資部分は、それぞれの中央銀行によってではなく、アメリカについてはファースト・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨークに率いられた銀行シンジケート団によって引き受けられ、日本については日本興業銀行に率いられた銀行シンジケート団によって引き受けられた。いくつかの中央銀行はそのBIS持ち株を第三者に売却したが、その場合でも資産権だけであって、投票権は当該中央銀行に残された。アメリカのフーヴァー大統領がBISへの参加を禁止した連邦準備制度の代表権については、バーデン・バーデンの専門家たちは驚くべき解決策を見出した。すなわちニューヨーク連邦準備銀行総裁のゲイツ・W・マクゲラー Gates W. McGarrah がその職を辞してその足で経営統括権を持つBIS総裁となって監査役会に議席を得たのである。また彼を補佐するBIS副総裁にはアメリカ人銀行家レオン・フレイザー Leon Fraser が就任した。

世界のためのスイスの清算機構

バーデン・バーデンの専門家委員会の提案に対する政治的な承認のために1930年1月のはじめにハーグにもう一度ヤング案にかんする諸政府会議が招集され、それにはスイスも初めて代表を送った。数日後にはすでに政治家たちは3つの文書にまとめられたバーデン・バーデンの組織委員会の提案に署名していた。すなわちBISの原則、BISの定款およびスイスがBISの原則に法的効力を保証し、そしてただすべての他の署名国の同意によってのみこれを改訂し得るという義務を負う取り決めの3つである。ためらうことなくスイスの代表は1930年1月20日にこのスイスの法律の規定の外部におかれる新たな銀行の規定文書に署名した。この文書の作成の際にもまた立地がバーゼルに決まった際にもいづれの際も彼らは何らかの相談を受けたわけではなかったが。

1930年2月7日にスイス政府、連邦評議会は、五四ページにわたるこの業務への教書を議会に分配した。そしてスイス社会では異例の速さで1930年2月24日の連邦総会の特別セッションでスイスと6つの設立国、すなわちドイツ、イギリス、フランス、ベルギー、イタリア、及び日本との間の国家契約に関して議論した。BISはその法人格をひとつの特別の連邦法によって獲得し、通常のスイス法による株式会社に対して4つの主要な相違点があった。1. 株主総会は監査役会 (Verwaltungsrat) の下位に置かれる。2. 総会における投票権は株式所有とかならずしも直結していない。3. 外部の支配場所がない。4. BISはスイスの司法権から免れている、である。二人の共産主義者の国民議員以外の全議員がBISに賛成し、連邦大統領のムージー Musy は満足して言った。「今やわれわれはスイスがこの賠償銀行を通じて結局のところ国際的な資本移動の回転台に、世界の資本、外国為替および金流通のための清算機構になることを望む事ができるだろう。」¹⁸⁾

ハーグ協定の議論の後で銀行の具体的な構築が急速なテンポで始まった¹⁹⁾。フランス銀行、ベルギー国立銀行、およびイングランド銀行の代表者からなる3人の組織委員会はバーゼルで会合を開き、他方ニューヨークでは予定されたBIS総裁のゲイツ・W・マクゲラーが同副総裁のレオン・フレーザーを伴ってヨーロッパに向けて出発した。その際あらかじめフーヴァー大統領との相談は行なわれていた。BIS経営陣はそれぞれドイツ・ライヒスバンクとフランス銀行に所属する総支配人 (Generaldirektor) ひとりずつと諸中央銀行からのある国籍比率にしたがって配分された重要幹部職によって構成されていた。ほぼ100人を数える人員の大部分はバーゼルでリクルートされた。セントラルバーン通りの連邦鉄道駅のすぐとなりにあるものサヴォイ・ユニヴァース・グラン・ホテルに銀行建物が見つかり、1930年4月23日の盛大な開行パーティー

18) *Basler Nachrichten*, 22/23. 2. 1930.

19) BISの設立に関しては次を見よ。Einzig, Paul, *The Bank for International Settlements*, London, 1930.

のざわめきが次第に収まった1930年5月17日、国際決済銀行はついに業務を始めた。

賠償銀行の終焉

1930年9月20日のドイツ国会議員選挙においてナチ党は得票率を2.6%から18.3%に増やした。続く数ヶ月の間ワイマル共和国の政治的な安定性における信頼がどんどん弱体化したことで急速な経済の悪化がドイツの諸銀行の外国からの短期信用の大量解約通知をもたらした。1931年6月ドイツ首相ハインリッヒ・ブリューニングはついに賠償支払いの停止を要求した。金融的にもっとも損失をこうむるフランスがいくらかの不平不満を表明した後、ついにアメリカ合衆国大統領ハーバート・フーヴァーが1931年の7月1日に賠償支払いの一年間の猶予を宣言した²⁰⁾。

フーヴァー・モラトリアムのおかげで債務過剰のドイツが最悪の事態を切り抜ける事ができるかもしれないとの希望はすぐに幻想である事が分かった。外国銀行の信用解約通知は引き続き続行され、ドイツの預金者もまた銀行からその預金を引き出した。ついに1931年7月13日ドイツ大手銀行のダナート銀行が貨幣不足のため全国的に窓口を閉めざるをえなくなると、これは全ドイツにおいて銀行窓口への殺到を呼び起こした。数日後ドイツ首相ブリューニングはドイツの全銀行及び貯蓄金庫の閉鎖を命令した。これは3週間後にやっと再開されたのである²¹⁾。

商業債務据え置き協定

フーヴァー・モラトリアムとドイツ銀行恐慌はドイツの賠償金支払いの終焉をもたらした、それによってバーゼルの賠償銀行の業務を麻痺させた。これに対処するための金融外交がきわめて活発化した。この際 BIS は、支払期限に達

20) *Deutsche Bankengeschichte*, Band 3, Frankfurt am Main 1983, S. 105.

21) *Deutsche Bankengeschichte*, Band 3, S. 121.

するドイツの商業的な外国債務の残高を調査する委員会をつくるという課題を受け取った²²⁾。この委員会は1931年の8月はじめにバーゼルで開かれ、ワイマール共和国の金融破綻を確認し、ドイツの短期外国債務に対するひとつの据え置き協定の締結を勧告した。このほぼ60億マルクに達するドイツの外国債務の支払期限を延期する外国の債権者銀行とドイツの債務者銀行との間の協定は最終的に1931年9月17日にバーゼルで署名された²³⁾。少し先回りして言えば、引き続いて1944年までのあいだ毎年この据え置き協定の延長のための交渉がおこなわれ、これが1933年以降第三帝国からの銀行家たちと他諸国からの彼らの同僚たちとの間の重要な交差点になるのである。

一年間のフーヴェー・モラトリウムが1932年6月期限が来た後、世界的な荒がりで経済大不況が支配していた。ドイツの賠償支払いの再開はもはや議題にならなかった。1932年7月9日にローザンヌでの会議で賠償金の全支払いが公式に埋葬された。これによって賠償銀行もまた余計なものとなり、BIS 総裁のゲイツ・W・マクゲラーは1932年末を以て彼の任期満了以前に退任する事になった。彼の後任は副総裁であったレオン・フレーザーに決まった。

BIS は1933年4月に新たな、重大な問題にぶち当たった。新しく選ばれたアメリカ合衆国大統領フランクリン・D・ルーズベルトがドルの金兌換義務を停止したのである。BIS は定款により金本位通貨においてのみ業務を行なうとなっていたので、これは銀行部門の業務領域を実質的な一層限定するものであった。というのは1931年の夏にすでにポンド・スターリングが金本位制から離れていたからである。いまや BIS はその規定に従えば世界の二つの主要通貨においては何ら業務を行なう事もできなくなってしまったわけだから、それ自体の終焉もただ時間の問題に過ぎないように見えた。1933年の夏には監査役会は銀行職員の労働契約の延長を終局的にきき止めることにした。当面は BIS

22) 有沢、前掲書、722ページ、「ウィギン委員会」がそれである。

23) Dossier "Sullhaltung", National Archives of the USA, Record Group 260, OMGUS Finad, 2/146/8.

の銀行部門がそもそも存続できるかどうかを検討されるべき状況になった²⁴⁾。ところが事態はそうは展開しなかった。数ヶ月後にはBISはイギリスのドイツ第三帝国に対する宥和政策のしるしのもとで救われたのである。

II 宥和政策家たちの「紳士クラブ」 1933年-1939年

いわゆる対独宥和政策 Appeasement Policy の基本的考え方は次のような考慮の内にある。すなわちヴェルサイユ条約によるドイツの抑えつけを通じてヨーロッパの権力均衡が持続的に破壊されてしまった。そしてただ第一次大戦前の権力均衡に戻らせるドイツの経済的復興だけが、ナチズムの独裁をして報復戦争を控えさせる事ができる、という考え方である。

この対独宥和の政治戦略の生成と展開にはヨーロッパの中央銀行間協力と少なからずBISにその重要な役割が帰せられる。1920年代の経過の中で、私有財産の保全と安定した貨幣価値を国民的な政策の上に置くといった、中央銀行家たちの誓い合ったギルドが形成された後で、バーゼルでの月例の会議という「クラブ・システム」が1930年代においていわゆる「ファシズム諸国」及びいわゆる「民主主義諸国」双方からの中央銀行総裁たちの他に邪魔されない秘密の対話のための理想的な場所を提供していた。

ドイツの側からはヒトラーによって1933年3月にライヒスバンク総裁に指名されたヤルマル・シャハトがこの点で中心的な役割を果たしていた。シャハトはすでに1924年から1930年までの間にライヒスバンクを率いていたが、1933年に初めて、彼も加わって設立されたBISの監査役会に席を得た。ヨーロッパの諸中央銀行総裁とりわけイングランド銀行総裁モンタギュー・ノーマンはヤルマル・シャハトをナチ独裁の代表者というよりもむしろ銀行家同僚であり同じギルドの兄弟と見なしていた。彼はまたドイツに対する民間の外国債権者たちにとっての最後の希望としても通用していた。多くの人々は、シャハトはヒトラーがワイマール共和国時代からの膨大なドイツの外国債務を一方的に

24) *Vossische Zeitung*, Berlin, 9. 8. 1933.

破棄する事を防ぐ事ができる唯一の人間だと信じていた。首尾一貫してノーマン・イングランド銀行総裁はドイツとの経済的な協力の拡大という政策を支持していた²⁵⁾。

BIS 監査役会の「アーリア化」

シャハトの BIS における最初の行為はドイツからの第二の BIS 監査役会構成員のカール・メルヒャー Carl Melchior の解任であった。ユダヤ人銀行家であるメルヒャーは、ハンブルクの M. M. ヴェルブルク (英語名ウォーバーク) 銀行商会 M. M. Warburg & Co. のパートナーであり、ドイツの主導的な国際金融専門家として通っており、1930年以來 BIS の監査役会に席を得ていた。彼の解任はヨーロッパの新聞紙上で言及されなかったわけではない。プラハの新聞は次のように書いている。「見たところドイツにおける主要ポストからのユダヤ人の排除は官僚職にとどまるものではないようである。」²⁶⁾ 実際のところハンブルクの M. M. ヴェルブルク銀行商会やベルリンのメンデルスゾーン銀行商会のような、そのはじまりは彼らと密接なつながりのあるロスチャイルドと同様に18世紀の後半にまでさかのぼることができるドイツのユダヤ系の諸銀行商会の解散はナチ党と彼らの共犯者であるシャハトたちの行動計画の中に入っていたのである。

BIS 監査役会におけるメルヒャーの後継者にライヒスバンク総裁シャハトが指名したのは著名な、やはりハンブルクの銀行家族の代表である、クルト・フライヘル・フォン・シュレーダー Kurt Freiherr von Schröder であった。この家族の一分家は19世紀の中葉にロンドン及びニューヨークに渡り、そこで J. ヘンリー・シュレーダー・バンキング・コーポレーション J. Henry Schroder Banking Corporation の名前で企業を作った。シュレーダー個人銀行のアング

25) Forbes, Neil, "London Banks, the German Standstill Agreements and Economic Appeasement in the 1930s", *Economic History Review*, 2nd ser. XL, 4(1987), pp. 571-587.

26) *Prager Presse*, 15. 4. 1933, in G. Trepp, S. 24.

ロ・サクソン分家は1940年までブルーノ・フォン・シュレーダー男爵によって率えられるが、かれは1914年にイギリスに帰化した、クルト・フォン・シュレーダーの従兄弟であった。クルト・フォン・シュレーダー自身はまた婚姻によってケルンのJ. H. シュタイン銀行の頭取となったが、同行は銀行恐慌を乗り切って生き延びた数少ない非ユダヤ系の個人銀行の一つにはかならなかった。政治的にはクルト・フォン・シュレーダーは1920年代の初めには急進的な分離主義者であり、独立した「ライン共和国」のための闘士となっていた。後にはこの「野心的な、向こう見ずの機会主義者」はナチ党と結びつくのである²⁷⁾。クルト・フォン・シュレーダーはヤルマール・シャハトと同じく、ヒトラーの経済問題顧問であるヴィルヘルム・ケプラーのもとに集まった工業家及び銀行家のグループいわゆるケプラー・サークルの主導的なメンバーであった。この影響力ある人々がヒトラーとナチ党に1930年代のはじめ以来選挙での勝利に必要なドイツの金融界および経済界における支持を得させたのである。ケプラー・サークルこそワイマール共和国の固有の墓掘り人と見なされ得る²⁸⁾。1933年の1月4日にクルト・フォン・シュレーダーは彼の別荘でヒトラーと保守派の前首相でドイツ大統領ヒンデンブルクの信任あるフランツ・フォン・パーベンとの悪名高い出会いの場を設定し、これがナチ党と保守派からなる1933年1月30日の第一次ヒトラー内閣の前提条件を作り出した。1933年2月1日にクルト・フォン・シュレーダーはナチ党入りし、その数週間後にはBISの監査役会の議席をもってその努力は報いられたのである。

「利子奴隷制の打破」の打破

ヨーロッパの諸中央銀行家たちの第三帝国からの同僚に対する信頼は、1933年の秋には、シャハトがナチ党の「社会主義的左派」のラジカルな反銀行的プログラムを解消した際のすばやさやと断固たる態度によって実証されることに

27) Nebe, Reinhard, *Grossindustrie, Staat und NSDAP*, Goettingen, 1981, S. 192.

28) Vogelsang, Reinhard, *Der Freundeskreis Hummler*, Goettingen, 1972, S. 28.

なった。「利子奴隷制の打破」という、ナチ党綱領作成者ゴットフリート・フェーダー Gottfried Feder によるスローガンは、当時国際銀行家たちから安眠を奪っていたのである。ミュンヘンの古参ナチ党員でヒトラーの最初からの同志であるフェーダーは、ヒトラーによって1933年2月にすぐにライヒ経済省次官に昇進させられていたが、ドイツにおいて銀行及び人工業における私的所有を廃止するつもりだった。「国民の利子奴隷制を打破する」ために、法律によって全国的及び外国からの債務に対する利子支払いを削除し、利子をつけた貨幣貸し付けは禁止されるべきであった²⁹⁾。もしフェーダー・プログラムがヒトラーによって実際に現実化されたら外国諸銀行はドイツにたいする債権を償却しなければならなくなったことであろう。そうならなかった事には少なからずシャハトの役割があったのである。1933年秋にかれは新たなナチズム的銀行法を作成する基礎を生み出すための調査委員会を任命した。そこで彼はこのプログラムを解消し、フェーダーが経済省次官のポストを失うように画策した。ナチ経済とドイツの銀行制度の基礎として少しでも制限された私的所有がそのまま残された。個々のナチ立法、たとえば外国為替の所有をライヒスバンクだけに許可し、民間人と民間銀行には禁止する（ライヒスバンクの外国為替管理）ための「ドイツ国民経済への反逆に対する法律」などによるある種の諸制限は、ライヒスバンクの地位を高める作用をした³⁰⁾。

アメリカ合衆国の一時撤退

ヒトラーのライヒスバンクがBISに問題なく自らを統合して行った1933年から34年にかけてのちょうどそのころ、アメリカの方は事実上パーゼルから撤退する状況になっていた。あの時バーデン・バーデンで知恵を絞って考え出された、連邦準備制度がJ. P. モルガンに支配された銀行グループとアメリカ人のBIS総裁とを介して間接的に代表される込み入った仕組みは分解せざるを

29) Vogelsang, S. 15.

30) *Deutsche Bankengeschichte*, S. 149f.

えなくなった。モルガン家は1930年代の初めに株式崩落と経済不況によって金融的にかかりの打撃を受けるとともに1933年の1月に始まったフランクリン・D・ルーズベルト大統領の新政府によって一時的ではあれ相当影響力を後退させた。ルーズベルトの「ニュー・ディール」のスローガンとともに始めた改革政府がついに1934年投資銀行業務と商業銀行業務を厳格に分離する新たな銀行法（「グラススティーガル法」）を導入した時、従来ユニヴァーサル・バンクの原理に基づいていたモルガンのこれまでの金融システムは直接有効ではなくなった³¹⁾。同時に新たな合衆国中央銀行法がモルガン家から連邦準備制度にたいする最後の影響力を奪い取った。すなわちモルガンやその他のウォール街の諸銀行が伝統的に強く影響を与えていたニューヨーク連邦準備銀行が合衆国の国際的な通貨政策に関しての支配的な権限をワシントンの連邦準備制度理事会総裁に対して譲り渡したのである。そしてこの機関は合衆国財務省長官ヘンリー・モーゲンソーの国家介入主義的政策の強力な影響下に置かれた。モーゲンソーにとってはニューヨークの国際的な大銀行が1929年の10月の株式大崩落及びそれに引き続く大不況の主要な責任者なのであって、かれは完全雇用と国民福祉のための鍵を銀行及び金融制度の国家管理に見ているのであった。「私は当時世界の金融センターをウォール・ストリートおよびシティ・オブ・ロンドンからワシントンに移し、国際的な金融関係を完全に新たな基礎の上に打ち立てようと思っていた。」とモーゲンソーは後年あるインタビューに対して答えている³²⁾。

BIS、このJ. P. モルガンの活発な援助によって設立された機関については、ヘンリー・モーゲンソーは一顧だにしなかった。1935年の秋にニューヨーク連邦準備銀行総裁のジョージ・ハリソンがバーゼルに向かおうとした時、モーゲ

31) モルガンの解体については、Ferguson, Thomas, "From Normalcy to New Deal, Industrial Structure, Party Competition, and American Policy in the Great Depression," *International Organisation* 38, 1, Winter 1984.

32) *New York Herald-Tribune*, 31. 3. 1946.

ンソーはこの旅行を禁じたのである³³⁾。これに対してアメリカ人の BIS 総裁であるレオン・フレーザーは彼の辞任を宣言し、ファースト・ナショナル・バンク・オブ・ニューヨーク副総裁としてウォール・ストリートに帰ってきた。バーゼルでの彼の後任にはオランダ人のヴィルヘルム・バイヤン Wilhelm Beyen が就任した。

宥和のための一手段

1937年5月以来在職していたチェンバレン首相のもとでのイギリス保守党政府のヨーロッパ政策は、第三帝国との均衡という特徴のもとにあった。この考え方の精神はチェンバレンから大変歓迎された1938年のヴァン・ジーランド van Zeeland による報告書に例としてよく表れている。前のベルギー首相のパウル・ヴァン・ジーランド Paul van Zeeland がイギリス政府とフランス政府の委託に応じて書いた報告書は、世界経済恐慌の克服はとりわけ議会主義的、民間資本主義的民主主義諸国であるフランス、イギリス、アメリカ合衆国とファシズム的、国家資本主義的独裁諸国であるドイツ及びイタリアとのあいだの相互の信頼の再建に求められる、という考え方を代表している。そしてこの再接近の過程においてヴァン・ジーランドは、国際連盟からのドイツとイタリアの脱退の後でなお枢軸諸国との間で定期的なコンタクトができる唯一の国際機関である BIS に重要な役割を与えるのである。

対独宥和政策の典型例として今日なおチェンバレンとフランス首相のダラディエの1938年のミュンヘン会談におけるヒトラーの要求への譲歩が通用している。ドイツによるチェコスロバキアの一部（ズデーテンランド）の占領への同意と引きかえにイギリスとフランスは残りのチェコスロバキアだけでなくヨーロッパの平和をも確保することを希望したのである。両方とも幻想であった。というのもヒトラーは戦争を決意していたからである。ミュンヘンでのイギリスとフランスのチェコスロバキアへの裏切りは BIS によるひとつの「後

33) The Franklin D. Roosevelt Library, Hyde Park, N. Y., Morgenthau Diaries, 25. 10. 1935.

奏曲」によって補われた。1939年3月15日ミュンヘン協定を破ってヒトラーがチェコスロバキアの残りの地域も占領した時、BISはプラハからひとつの電報を受け取った。ドイツ国防軍に占領されたチェコスロバキア国立銀行が、BISの名義でロンドンのイングランド銀行に保管しているチェコの通貨準備の23.1トンの金をドイツ・ライヒスバンクに移転するように求めてきたのである。3月24日BISの銀行部門は彼らの帳簿においてこの業務を遂行し、これをもって「侵略者」ヒトラーにロンドンにあるチェコスロバキアの通貨準備を引き渡したのである³⁴⁾。

チェコスロバキアの金

このチェコスロバキアの金の一件が1939年5月19日になってはじめてイギリスの新聞に突然現れた。Financial NewsとDaily Telegraphがチェコスロバキア国立銀行の一人の幹部からこの情報を匿名でさりげなく与えられたのである。この幹部はイングランド銀行とフランス銀行が、公衆がこれを知れば、チェコスロバキアの金のヒトラーへの引き渡しを妨げるであろうという幻想を持っていた³⁵⁾。これにたいしてこの事件はイギリスの新聞でも大陸ヨーロッパの新聞でも大きな反響を引き起こした。コメンテーターたちは、イギリスにおけるチェコスロバキアの全資産のブロックがBISに対してなぜ適用されないかと問うていた。イギリス首相チェンバレンは下院において最初のうちは新聞の誤報であるかのようなあいまいな逃げ口上でことを済まそうと試みていたが、下院議員の執拗な質問の圧力のもとでこの金のBISからライヒスバンクへの移転が実際に起こったことを認めた。「新聞の誤報から政府の悪夢へ」というタイトルのもとでBIS批判者パウル・アインツィッヒ Paul EinzigはFinancial News紙上でBISのできるだけ早い解散を要求した³⁶⁾。他の紙誌たとえば

34) McKittrick Collection, aide memoire, or-tcheque, 24. 3. 1939.

35) The Financial News, London, 2. 1. 1940.

36) The Financial News, London, 24. 5. 1939.

The Economist も、その「治外法権が、ドイツにチェコスロバキアの非合法的で今日までのところ認められていない征服というきわめて高価な褒賞を与える事に役立っている」BISの有益性についての「深刻な疑い」を表明した³⁷⁾。

チェコスロバキアの金をめぐる事件は、チェンバレンの対独宥和政策によってますます退却戦になってきた。イギリス国民の態度がドイツのプラハへの侵攻の後で突然ヒトラーの前での更なる後ずさりに反対な方向に逆転し始めたので、イギリス政府とイングランド銀行はドイツへの金の明け渡しについての彼らの同意を否定しようと試みたのである。最終的に大蔵大臣のジョン・サイモンとノーマン・イングランド銀行総裁はひとつのトリックで彼らの責任から忍び出た。下院議会での議論の当日ノーマン総裁はBISに対し、かれらのロンドンのイングランド銀行における多数の金保管庫をただひとつの統合された保管庫にまとめるよう指示したのである。これまではBISが様々なヨーロッパの中央銀行の勘定で維持していた金保管庫は明確に区分けされてあったのである。従ってイングランド銀行はいつでもどの中央銀行がどれだけの金を保管庫に置いていたかをよく知っていたのである。BISの諸中央銀行用保管庫のすべてがひとつのBIS金保管庫にまとめられた後ではイングランド銀行はロンドンにあるチェコスロバキアの金がいかに実際に出荷されたか否かもはや知ることはできなかった。そして嘘をつくことなしに蔵相ジョン・サイモンは議会の前で自分は知らないと言明する事ができたのである³⁸⁾。

BISの金決済機構

物理的には、1939年3月24日にイングランド銀行にあるドイツ・ライヒスバンクの保管庫に流れ込んだ23トンの金は、スレッドニードル通り Threadneedle St. のイングランド銀行の金保管庫の奥深くを決して離れる事はなかったのである。それにもかかわらずライヒスバンクとそれによってドイツ戦争経済

37) The Economist, London, 24. 5. 1939.

38) Einzig, Paul, In the Centre of Things, London, 1960, p. 189.

はこの金の等価を自由に使うことができた。これは BIS の発達した金決済制度のおかげで可能になったのである。法的にはこの制度は、「ハーグ協定の署名者は戦時においても平時においても BIS に保管した金のあらゆる移転制限や没収をおこなわないという義務を負う」という BIS 原則の第10条に基づいている。この決済の技術的な基礎は、BIS がバーゼルにおいて諸中央銀行のために導入した物理的に統一された金口座と、BIS が様々な場所において維持している物理的な金保管庫との、結合である。こうした BIS の金保管庫は、あるいはベルンのスイス国立銀行の中にあり、あるいはロンドンのイングランド銀行の中にあり、あるいはニューヨーク連邦準備銀行の中に、あるいはまたアムステルダムのおランダ銀行の中にある。それに加えてなおいくつかのより小規模な金保管庫が他にある。BIS はバーゼルのセントラルバーン・シュトラッセの自身の業務場所には何らの金も保管していない。なぜならそこには金保管のための空間もないし、金の延べ棒の測定や厳密な検査のための技術的な設備も置いていないのである。BIS の金決済システムは国際的な支払いの往来における金の物理的な輸送を金口座システム上の単純な帳簿書き換えによって補完しているのである。1939年3月末にロンドンからライヒスバンクのためにベルリンに向けて流れ込んだ、あのチェコスロバキアの金の金価値の移動のために、バーゼルでの単なる帳簿の書き換えで十分であったのである。